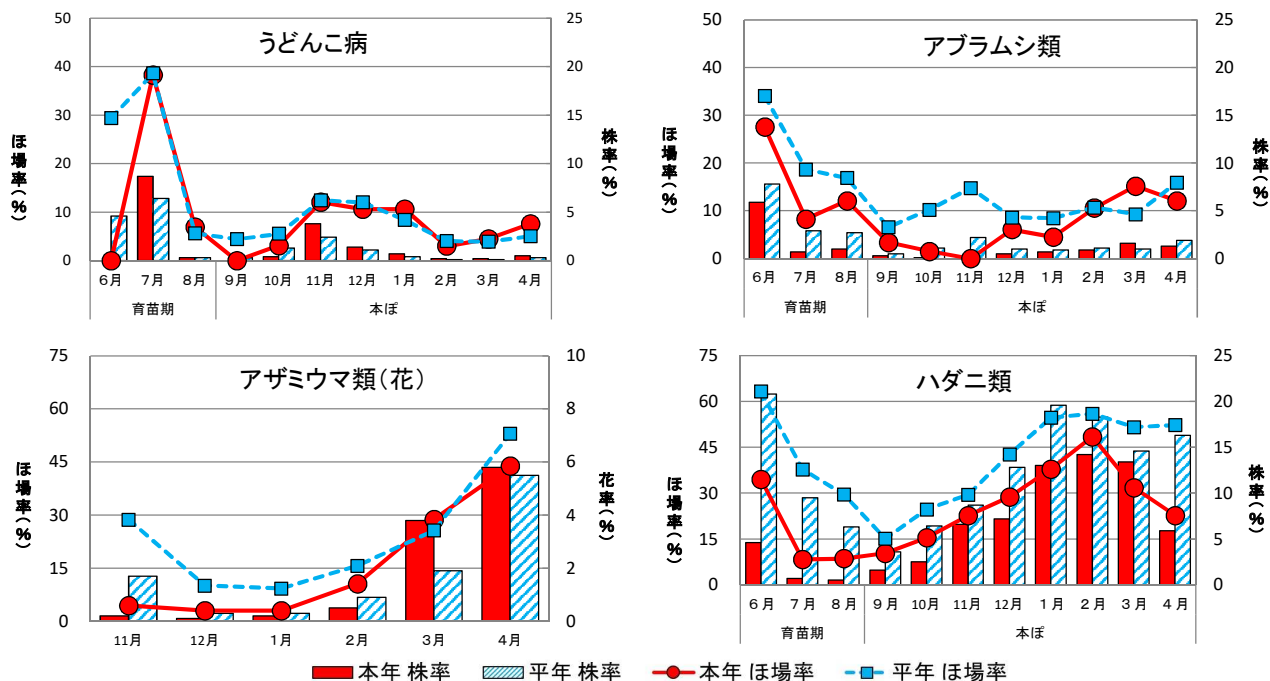


■ 病害虫の発生状況

- ・ うどんこ病の発生はやや多いです。
- ・ アブラムシ類、アザミウマ類の発生は平年並、ハダニ類の発生はやや少ないです。



※ほ場あたり25株調査 ※株率(%) : 発生株数 / 調査ほ場数 × 25株 ※ほ場率(%) : 発生が確認されたほ場数 / 調査ほ場数

■ 主な病害虫の発生予想と防除対策

1 うどんこ病

- (1)発生予想 ・ 発生量: 多い
- (2)対 策 ・ 軟弱徒長すると発生しやすくなるので、適正な温度管理や下葉かきを行うなど、ほ場管理に留意する。
・ 発生初期にアフェットフロアブル(RACコードF:7)等を葉裏にもよくかかるよう散布する。
- (3)備 考 ・ 硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるため、天敵を導入した場合は長時間のくん煙処理は避ける。

2 アブラムシ類

- (1)発生予想 ・ 発生量: 平年並
- (2)対 策 ・ 発生が見られる場合はウララDF(RACコードI:29)等を散布する。被害が大きくなるおそれがある場合には、モスピラン顆粒水和剤(RACコードI:4A)等を散布する。
・ ほ場内外の雑草は発生源となりやすいので除草する。

3 アザミウマ類

- (1)発生予想 ・ 発生量: 平年並
- (2)対 策 ・ 花を良く観察して、観察した花の1割以上にアザミウマ類が見られる場合には、ディアナSC(RACコードI:5)等を散布する。
- (3)備 考 ・ 秋期にアザミウマ類の発生が多かったほ場は、発生に注意する。
・ [防除のポイントNo.19](#) を当センターHPに掲載中。
・ [アザミウマ類薬剤感受性検定結果、続報](#) を当センターHPに掲載中。

4 ハダニ類

- (1)発生予想 ・ 発生量: やや少ない
- (2)対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・ 化学農薬に対する感受性低下が著しいため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。その際、天敵導入ほ場では、天敵への影響を考慮する。
・ 気門封鎖剤は、5日程度の間隔で複数回散布する。
・ 葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
- (3)備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#) を当センターHPに掲載中。

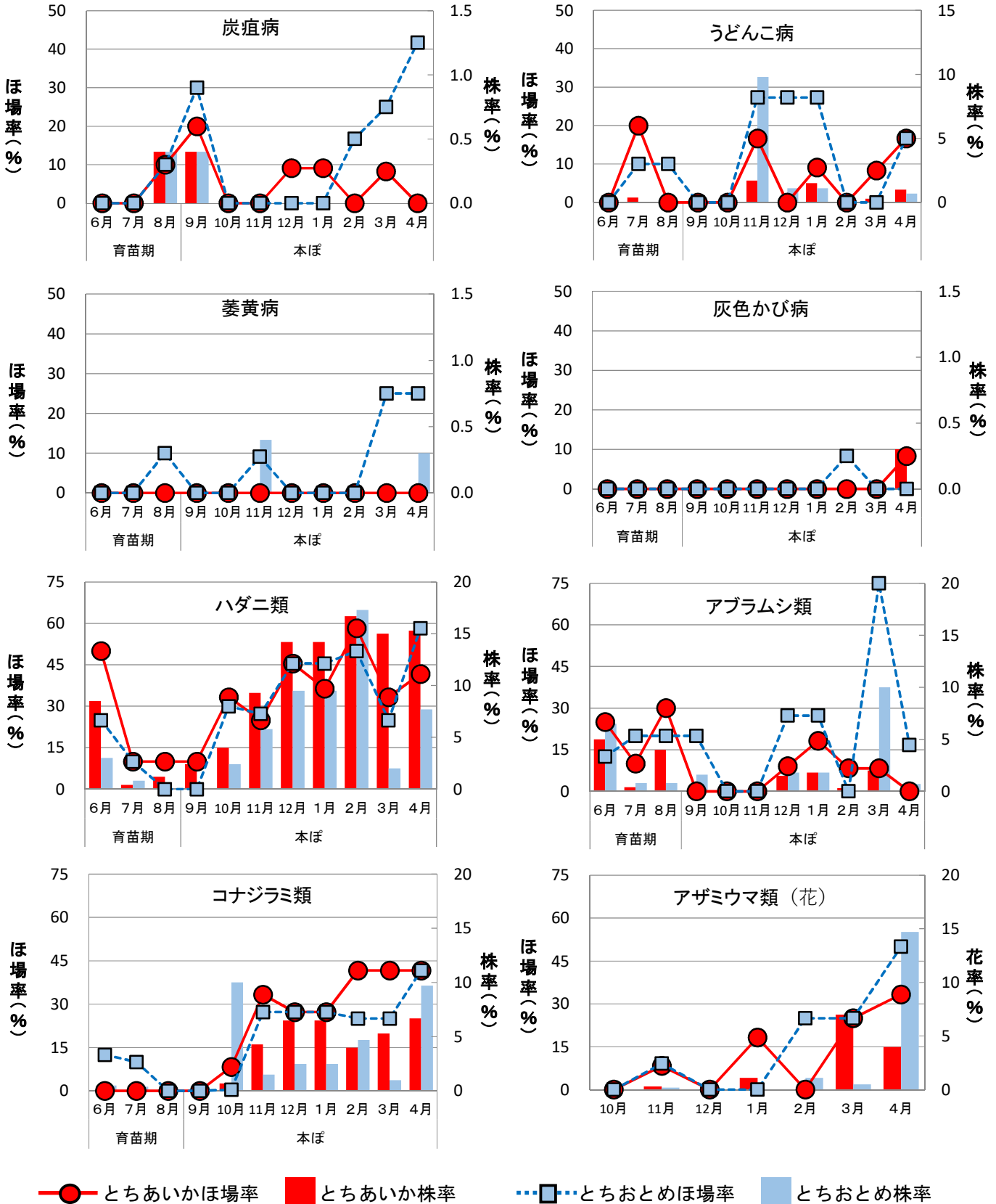
「とちあいか」「とちおとめ」品種別病害虫発生調査結果について

令和4年産のいちごの病害虫発生調査結果について、主要8病害虫の発生量の推移を品種別に集計しました。集計対象は「とちあいか」「とちおとめ」の2品種を栽培している耕作者の圃場としました。「とちおとめ」の栽培圃場の一部で萎黄病の発生が認められたのに対し、萎黄病に強い特性を持つ「とちあいか」の栽培圃場では発生が認められませんでした。その他の病害虫の発生量については、品種間における差は認められませんでした。

病害虫発生調査結果の品種別集計は今後も継続して行う予定です。

【調査期間：2021年6月～2022年4月 ほ場数：8～12ほ場(月ごとに変動)】

■ 主要8病害虫の品種別発生推移



●とちあいかほ場率 ■とちあいか株率 ●とちおとめほ場率 ■とちおとめ株率